

書評

ドナ R ファルヴォ 著 津田 司 監訳

上手な患者教育の方法

伊藤 正子(自治医科大学病院看護部長)

多くの人に読んでもらいたい「虎の巻」

患者と接する時間が最も長い看護婦は、患者のさまざまな状況変化に伴い、その対応の仕方に不安や戸惑いを感じることが少なくない。いわんや、患者にとっては、自分の状況の変化に不安な対応や戸惑いをかいま見せる看護婦の様子を見たならば、彼の不安はなおさらであるにちがいない。

私たち看護婦は“常に患者の立場に立って深く考えたい”と誰もが願っている。しかし、考えれば考えるほど、わからないことばかりである。それでも、いつも患者から「あの人に話してみよう」「あの人に相談してみたい」と信頼される看護婦になりたいと思う。

これまで、患者との対応の仕方、指導方法について、多くの先輩・仲間との出会いの中から、また文献や講義の中から、学ぶ機会があった。しかし、現場での複雑な問題状況の中では、それらを効果的に積み重ねることができなくて、せっかく学んだ内容も看護活動に十分に生かせなかったことも多かつ

た。

この「上手な患者教育の方法」は、患者の側から医療従事者に望むことが完璧な形で表されている。数多くの事例が示されていて、患者の気持ちがそこに十分満たされている内容だと思った。

実は、入院生活を長くしていた近親者に、「患者の立場から読んで、どう思うか聞かせてー」と、この本を読んでもらった。そうしたら、「患者心理にぴったり合った内容だと思う」との感想をもらしてくれた。

この本に盛られている事柄を果たせる医療従事者は、最も理想的だと思われる。私たちは、それがどんな小さな場面であっても、患者から「この人に逢えて、本当によかった」と心から喜んでもらえる人になりたいものである。

この「医療の虎の巻」を一人でも多くの方々に読んでもらいたいと思う。

(A 5 頁 302 図 12 3,605 円(税込) 1992 医学書院 刊)